（昭和34年1月31日第三種郵便物認可）　うたごえ新聞　1962年11月1日（毎月2回1日・15日発行）　第160号　15円

うたごえは平和の力

安保破棄・全面軍縮のうたごえを

国のすみずみに

うたごえ新聞

編集　日本のうたごえ実行委員会
発行　うたごえ新聞社
東京都新宿区西大久保3の67
電話（361）5220〜1
1カ月　30円（〒共）
3カ月　90円、6カ月　180円、1年350円

目前に迫る！日本のうたごえ大祭典

無数の要求を結集して組織強化を

第六回　日本のうたごえ実行委員会

10・21の成功と安保共闘再開、"アメリカは独立キューバから手を引け"との抗議行動の高まる中で十月二十八日、第六回日本のうたごえ実行委員会が東京原宿・全逓船会館で午前十一時からひらかれた。渡辺定市（鉄鋼）田中重晴（九州）の両氏を議長にえらび、事務局から①10・21とその後の情勢、②祭典準備の経過と問題点、③荒木氏の死去と措置について報告のあったのち、各団体の準備活動が報告され、次の議題で大祭典にむけての集中的な討議が行われた。

【議題】（一）組織活動の重点、（二）企画の内容、（三）十周年記念事業、（四）うたごえ総会、（五）財政、分担金納入と取扱い、（六）事務局体制の強化、（七）日本平和大会、（八）荒木栄氏の死去。

〈出席団体〉ホテル、合化、鉄鋼、電通、都市交、国鉄、ガス、新聞、造船、炭労、学生、自労、農協、電力、国公、港湾、金属、センイ、金融、教員、百貨、専売、若い仲間、東北、新潟、千葉、茨城、埼玉、神奈川、東海、九州、中央合唱団、音楽センター、事務局（以上三三団体、四二名）

行動の統一を日常不断に

① 組織活動の重点にもとずく各団体の積極的な活動―とくに10・21の成功、安保共闘の再開は、きびしい情勢を有利にきりひらいた。今こそ"今すぐ世界に平和を"にもとずく職場、地域の無数の要求をうたにし、行動に組織する時である。国民の課題を明らかにすることと、新しい層への拡大が一つに結びつくことを、キューバの問題が端的に示している。

② とくに困難視された電機で活動家が右の点で意志を統一し、自主的な組織活動を職場からおこし、八〇〇名の目標を立てた。問題は組合が「日韓会談」や「キューバ問題」を取り上げたからうたごえの組織が進むのでなく、うたを敏感にひろめ、数をふやし、積み重ねてゆくこと。この場合、うたごえ行動隊の活動、自主的なうたごえ協議会の結成、強化がどうしても必要である。

③ うたごえ行動隊をせまい地域的な活動に限るのは誤りである。みんなうたう会を組織し、職場の中の無数の要求と感情をひきだし行動の統一を日常不断に進める最も大々的な活動の場とすること。これが「職場に一割をうたごえに」の総会決議の具体的内容である。

④ 祭典参加者数、十、十一日の両日で二万六千名。とくに地方は更にふえる見込み。あくまでも職場を基本として、地域の活動を強め、又空白の職場に地域からひろめてゆく相互関係が必要。その点、産別では県別の実態を明かにして組織部に届ける。

参加の拡大、国際的なひろがりと見合う企画を

① 参加費の決定（十一月四日〆切）が約三分の一の団体ですんだ。この中、産別合同で「交通労働者」「金属共闘」「自労―医療」が企画され、地方では「基地撤去」を全国的にうたいかわす特色が見られる。

② これらは何れも職場、地域の要求をなまなましくとらえようという現れだが、音楽としての面白さ、情感として受入れられ易いことが必要である。そのためには広く国際連帯の立場にたった選曲や演出の工夫を一層おこなう必要がある。

③ この点、今年画期的なのは「郷土のうたおどり」で、全その人に受け入れられるすばらしい民族の宝が、全国の地方からほりおこされ、一大集大成をなそうとしている。これは新しい運動として、大いにひろげ、成功させなければならない。

十周年記念事業を成功させよう

（イ）バッジ図案募集

（ロ）活動家の表彰、十一月四日迄

（ハ）映画製作　二巻二十分、三万五千円。申込み受付中。

（ニ）サークル調査表アンケート、十一月二五日まで。

（ホ）実行委加盟促進―十一月二五日。

うたごえ総会

各団体十名程度、詳細の内容は次回、参加証を発行。

事務局体制の強化

九州＝魚住、東北＝藤村
北海道＝藤本、群馬＝安斉、の四名が十一月に着任。創作、渉外、宣伝、全国受入れ等を担当する。

★次回実行委員会は十一月二五日

東海の前進から学ぼう

全国合唱団拡大常任委員会

十月二八日の第六回実行委員会にひきつづいて、全国合唱団拡大常任委員会がひらかれた。議題は、①10・21の総括、②平和大会③うたの全国合同曲、④全国農村合同曲、⑤体制、⑥荒木君の死去について。

〈出席〉仙台、茨城、千葉、南部（東京）、中央合唱団、名古屋、埼玉。

〃〃〃